

## COG2025 応募内容確認書

ID	34-19-1
自治体名	大阪府豊中市
自治体提示地域課題	持続可能な多世代交流の場の創出に向けて
チーム名	庄内ヤギ部
アイデア名	ナイスメエ～ディアな庄内のヤギコミュニティー
チーム属性	混成：市民と学生（ ）の混成チーム
チームメンバー数	2
代表者	浅野 詩奈
メンバー（公開）	浅野 詩奈, 高橋 凜

### 【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

## 基本情報ページ

チーム名: 庄内ヤギ部

アイデア名: ナイスメエ～ディアな庄内のヤギコミュニティー

該当する自治体名: 大阪府豊中市

自治体提示の地域課題: 持続可能な多世代交流の場の創出に向けて

## 1. アイデアの全体像(What)

庄内とヤギの関わりは、2023年に庄内コラボセンター「ショコラ」(以下ショコラ)がオープンした際、テラスの除草を目的としてヤギを1か月間レンタルしたことから始まった。日常的に利用される公共施設にヤギがいるという光景は、利用者にとって思いがけない刺激であり、ショコラを訪れる人々の目を引いた。ヤギという強烈な印象と”1ヶ月しかいないヤギ”という限定要素も相まって、多くの方がヤギに恋しさを感じていた。このエピソードに地域の学生が魅力を感じ、ヤギという存在は地域コミュニティを繋ぐ役割にならないだろうかと考えたのがこの企画の始まりである。

ここ2年間は、地域の学生がコミュニティ作りを目的として、ショコラにヤギを呼びたいと動き出した。ショコラには高齢者が通う介護予防施設や、子どもたちが集まる場所が併設されているものの、世代を越えて関わる機会は決して多くなかった。そこで、ヤギのお世話やイベント企画に誰もが携われる暖かい居場所のような形で「庄内ヤギ部」が結成された。今年度は11月5日～11月28日の1ヶ月間ヤギ二頭をレンタルし、ヤギを通じた新たな地域コミュニティ作りの場を設けた。

### 【活動】

#### ◎毎朝8:30~のお掃除

学生は1限の授業に間に合わず、大人は仕事や家事に追われているため、毎日8時30分にショコラへ足を運びヤギの掃除を行うことは、大きな負担となる。そこで、シフト制を基本としつつ、行ける日に気軽に参加できる仕組みを取り入れ、無理のない形でヤギと触れ合える機会を設けた。

#### ◎小屋作り

ヤギ部員や地域の方の持ち寄り材料を収集し、ヤギ小屋を完成させた。ヤギに小屋を作ってあげたいという企画を出した学生とそれに応えて場所や材料を無償で提供してくれた地域の方。また、ショコラに居合わせた元大工さんにもご協力いただき、地域住民総出で小屋を作り上げ、無事にヤギを迎え入れることができた。元大工さんには、工具の使い方を伝授していただき、普段は関わり合うことのない人同士が繋がる実体験となった。

#### ◎ヤギとのふれあい体験

普段はテラスを解放していないため、窓越しでヤギを見ることしかできない。そこでふれあい体験を実施し、誰でもヤギと触れ合えるイベントを企画した。ヤギの餌は、家庭から出た野菜や果物の皮、米ぬかなどを寄付してもらい形で集めた。ヤギがいる場所から、家や学校、お店などいつも過ごしている場所に感覚や感情を持ち帰る。”これをヤギが食べてくれるかもしれない”とワクワクしながら餌を用意して、次の日に持ち寄ってくれるという感情の循環＝習慣ができた。

#### ◎ショコラフェスタ

11月15日にショコラにて開催された”ショコラフェスタ”に庄内ヤギ部として参加した。ショコラフェスタは庄内地域の最大のイベントで、当日は1万人の来場者が訪れた。普段ショコラを利用していない人々も多く「公共施設にヤギがいる」という非日常空間に興味を示してくれる方が多くいた。この日はふれあい体験に加え、餌やり体験も実施した。ヤギに驚き、涙してしまう子どもや、ヤギを家畜として飼っていた昔を懐かしむ高齢の方が居たりと反応はさまざまであった。こうした体験を通じて、ヤギの存在が人の感情や他人との会話を引き出す存在であることを実感した。ショコラフェスタへの参加は地域住民との交流はもちろん、行政とも同じ場で関わる貴重な機会となった。日頃から公共施設として地域を支えているショコラに非日常空間を提供することはコミュニティ創出に発展するのだと再確認できた一日であった。

### ◎トヨカツユースセッション

本イベントは若者による挑戦や地域課題への取り組みを発表する場として開催され、多世代交流や新たな共創のきっかけを生み出すことを目的として開催された。主催は「より良い豊中のまちづくり」を目指し、地域で活動する個人や団体を支援している豊中市民公益活動支援センターである。同センターはショコラに所在しており、行政からこのような場を提供していただけたことで、より多くの方にヤギを媒介とした地域交流の取り組みを発信することができた。発表後は、普段は関わることのない多様な分野の団体との交流が生まれ、各々の活動の背景や取り組みについて意見を交わすことができた。行政が関わる公式な場で活動を共有したことで、庄内ヤギ部の取り組みが地域課題に向き合う一つの実践例として認識され、今後の連携や広がりにつながる手応えを得ることができた。

### ◎ヤギとおさんぽ

ヤギ部員はもちろん、地域の方からの「ヤギって外を歩けるの?」という声をきっかけに、道中の掃除や安全面、そもそもヤギが進行方向に進んでくれるのかも分からないまま始まった本イベント。ショコラのテラスで過ごしているヤギにとって初めての外出となり、700m先の庄内神社を目指してお散歩はスタート。道中では物珍しそうにヤギを見つめる地域の方が居たり、散歩中の犬とヤギとが見つめ合ったりしていた。庄内の街にヤギがお散歩しているという非日常空間に思わず足を止め、自然と会話や交流が生まれていた。神社では草木だけではなく落ち葉も食べており、結果的に神社の環境整備にもつながった。また、近所の方から「子どもたちにハーブを体験させる場を設けてほしい」というお声がけをいただき、神社でハーブの演奏・体験会も同時に実施した。普段触れることのない楽器の音色と、ヤギや人の穏やかな空気が重なり、神社の境内にはゆったりとした癒しの時間が流れた。神社の関係者や七五三で訪れていた参拝者との交流、そして音楽との融合を通して、ショコラを飛び出してもなお、ヤギを媒介としたコミュニティが生き続けていることを実感する企画となった。

### ◎庄内ヤギ部内での交流

現在、庄内ヤギ部は地域の学生や地域住民、行政職員を含めて、約30人(うち2人企画運営)で活動している。頻繁に会って活動することはないが、定期的にヤギ会議を開きヤギ部内での交流も深めている。ショコラの会議室を借り、職員さんも交えてヤギの名前を考えたり、イベントの企画を行った。また、ヤギが帰った後もお茶会を通じて、交流を絶やさないよう心がけた。庄内ヤギ部の最年少は2歳の女の子。母親によると餌やり体験の際に、自分が普段食べている野菜や果物をヤギも食べている光景が印象に残っており、ヤギ部に入部してくれたとのこと。食を共有する感覚はおままごとの延長として自然に受け入れられ、ヤギへの親しみを深める要因となったのだろう。このように庄内ヤギ部内での交流は、年齢や立場を超えた関係性が自然に生まれる点に大きな特徴がある。2歳の子どもから小学生、大学生、地域住民、行政職員までが同じ団体の一員として関わり、ヤギを中心にイベント企画や日常的な交流が行われてきた事例は、これまでには見られなかったものである。だからこそ、庄内ヤギ部が地域と行政、住民と学生までもをつなぐ架け橋の先駆者となっていきたい。

## 2. アイデアの理由 (Why)

ターゲットとする地域の方々がこの企画の原動力となった。

☆来年もヤギに来て欲しい人→来年も(ヤギによる)癒し空間、日常に心の彩が欲しい人

↓

ヤギ部: 来年はただ見るだけのヤギでなく、もっとヤギと人も、人同士も触れ合える  
関係や交流の場所を作ろう

☆普通の日常をもっと彩で満たせるように

☆コミュニティーを広げたい→もっとたくさんの人に彩を届けたい  
なぜ、たくさんの人に届けたいのか...

☆この街には大きなつながりになれる可能性があると感じたから

目標: この街をもっと好きになりたい、もっと暖かい場所なんだと伝えて、  
好きになって欲しい

### 3. 実現までの流れ(How)

ヤギ部の情報が広まっていった背景には、ヤギ部からの情報発信はもちろん、地域の方々それぞれの小さなコミュニティからの影響も感じられた。公式Instagramを開設し、SNSでヤギ部の活動やヤギの観察記録の投稿などを行った。行政の弱点であるSNSの活用を学生がカバーすることで発信力の幅も広がった。それに対して、地域との連携の繋ぎ目として行政にお力添えをいただき、豊中市のHPや地域の情報サイトやロコミなど、年代を問わず情報を手に取ることができている状況を実現させることができた。さらにテラス横には、「ヤギ日記」や「ヤギの落書き帳」などを設置し、自由にヤギへの想いを表現できる場を設けた。地域コミュニティの広がりが自然とUGC化(ユーザー生成コンテンツ)できたのも大きな進歩であった。

#### ヒト

・庄内ヤギ部(お世話・イベントの運営、企画)

→[庄内ヤギ部Instagram](#)、情報サイト([とよなかって](#)・[豊中報道](#))、ロコミ、イベント参加から自然流入

#### モノ

・庄内コラボセンター「ショコラ」

・ヤギ小屋や清掃道具

→地域の方の持ち寄り

・餌

→地域の方からの持ち寄り、近隣学校からの不要な作物、雑草(ショコラの除草)、購入

#### カネ

##### 【収益】

・ステッカー販売(1枚200円で販売、イベント時はエサやり体験付き)

→12月16日現在 **36,000円**(180枚)の売り上げ

##### 【支出】

・ヤギレンタル費 **7,000円**(1ヶ月3,500円/頭)

・ステッカー作成 **9,600円**(250枚)

・その他餌代やイベント時の雑費 **10,000円**

#### 時間軸

##### ① 準備(10月)

・ヤギ部員募集

・ヤギ会議(イベント企画)

・備品調達

##### ② 実施(11月)

・毎日のお世話

・イベント

・SNSでの発信、記録

##### ③ 振り返り(12月)

・お茶会

・SNSでの発信、記録

・次年度に向けて

リスク: せっかくできたコミュニティーが1ヶ月限りの活動で終わってしまう

対応:

- ・記録(ヤギ日記、ヤギの落書き帳)を地域に残す
- ・SNSでの情報発信
- ・定期的お茶会の開催
- ・「11月＝庄内のヤギの季節」という文化を根付かせる
- ・次年度参加者への橋渡し

→ヤギ以外でも、公共施設であるショコラの日常に、非日常空間を差し込むことで普段にはないコミュニティーや交流が生まれ、結果的に多世代交流や関係づくりに結びつくのではないだろうか。